

## 第1回 基礎学習理論研究会 概要報告

奈良教育大学 中澤静男



- ◇開催日時 平成30年4月20日（金）19時～21時
- ◇会場 中澤研究室
- ◇参加者 島先生（郡山西小）、河野先生（附属小）、新宮先生（平城小）、中澤哲（平群北小）、中澤敦（きんき環境館）、中澤（奈良教育大）
- ◇テキスト 「見方・考え方 社会科編」（澤井陽介・加藤寿昭、東洋館出版社、2017年）第1章

### ◇内容

#### 1. 概要

見方・考え方と資質・能力は相互関係にあり、双方向的に成長する。

見方・考え方は手段である。「視点・方法」である。

見方・考え方が授業改善の鍵

社会をわかり、対応できるという概念的知識だけでなく、価値的・判断的知識を養い、よりよい社会の形成者を育成するところに重点がある。

なぜ、だけでなく「どのように」という問いに対する答えも概念的知識を育成する。

概念的知識を他の地域や事象にあてはめ、類推する。それを確かめようとする学習を展開することで、「見方・考え方」の洗練化が図られる。

「見方・考え方」は「視点や方法（思考の枠組み）」である。

#### 2. 考察

##### （島）①教科等の特色に応じた見方・考え方

示された見方・考え方を批判的に検討し、見方・考え方を明確にすべき

見方・考え方を働かせて社会事象をとらえることで、問いが生まれるのではないか。

教師と子どもは共同研究者であるというとらえかた。

##### ②授業づくり

資質・能力の育成が一番重要である。

##### （哲）①問いの質

子どもの既存の知識を活用しながら新たな知識を獲得するような問いが重要（今井・澤井・哲）

##### ②見方・考え方で終わらせない

見方・考え方を評価することも重要

見方・考え方は評価できるか。働かせ方というプロセスを評価する。

##### ③「見方・考え方」を意識した授業づくり

既習事項を確認し、見方・考え方を予想した授業づくり

##### （河）①知識について

ジェネリックスキル（どこでも通用する知識）は存在するのか。科学的根拠はない。

類似した文脈でのみ可。

汎用性のある知識そのものより、知識を構造化するプロセスが重要

## ②省察

自己の考え方を批判的に熟考すること。これが見方・考え方を働かせることではないのか。

見方・考え方の対象は外にある。省察の対象は自分の中にあるのではないか。

## (新) ①問い

社会事象の特色・意味を考える問いがあるが、問いには追究のエネルギーを向上させる役割もある。「ひっくり返し」「ゆさぶり」意外性

追究のエネルギーを持続させる

「単元を貫く問い」ではなく「どんどん問い変がわっていてもいいのではないか」

## ②教材

教科書の教材だけでなく地域教材の開発の重要性（時間・空間・相互関係に着目し）

## (静) ①見方・考え方の評価

自己評価は困難である。（ビゴツキー）

## ②価値的・判断的知識の評価

チェックシート等を使って、客観的資料をもとにすることで自己評価が可能になる。

## ③見方・考え方の捉え方

わかり方のための道具だけでなく、社会の創り方のための道具でもあるべき。

## 3. この勉強会の名称について

基礎学習理論研究会とする

## 4. 次のテキスト

「「タイムリー・ウィズダム（いまこそ必要な知恵）」を育む」アーヴィン・ラズロ、『持続可能な教育社会をつくる』日本ホリスティック教育協会、せせらぎ出版、2006年

次回は、5月18日（金）19時～

